

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名：特別養護老人ホームしおさい新館

サービス種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護

地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

地域密着型通所介護 ・ 認知症対応型通所介護

日時：令和5年6月2日（金曜日）10時00分～11時00分

場所：しおさい会議室

出席者：8人

利用者代表	0人	知見を有する者	0人
利用者家族	2人	大田市職員	1人
地域住民の代表	2人		
事業所職員（職名：施設長 主任 リーダー）			3名

報告事項：

利用状況

- ① 入所者の人数 19名（退所1名 入所4名 定員20名）
- ② 要介護度 要介護5 8名 ・ 要介護4 6名  
要介護3 4名
- ③ 男女比率 男性3名 ・ 女性16名
- ④ 年齢 64歳～98歳 平均88.3歳

介護状況

- ① 起き上がり全介助 18名
- ② 胃瘻 0名
- ③ 排せつ全介助 18名
- ④ チェアインバス：ストレッチャー入浴 14名：5名
- ⑤ 肺炎入院 0名
- ⑥ 褥瘡 1名（病院で形成 徐々に改善）
- ⑦ 重度拘縮 1名
- ⑧ 苦情相談 0件
- ⑨ 身体拘束 0

⑩ 受診以上の介護事故 1件

1、施設長挨拶

2、新型コロナウイルス感染症対応状況

	しおさいの状況
利用者罹患	なし
職員罹患	なし
面会	・一般利用者：窓越し面会 可能な範囲で柔軟対応 例：状態不良・家族記念日等 ・看取り利用者：直接面会 常時付き添いはまだおことわり中
外出	・周辺の散歩は希望時対応 ・基幹病院受診は原則希望対応 ・その他はできる限り対応 職員同行外出：戻ってからの様子観察期間なし 非同行外出：戻ってから3日間居室対応

○他事業所のディサービスではクラスターが発生して、保健所の指示に基づいて休業していた。5類になっても保健所の対応は変わらない。持ち込まないように気を付けていく。

3、ユニット活動状況

- ・4年ぶりに仁摩八幡神社のお祭りが開催された。地域の子供が神輿を担ぎ、しおさいにきて、大変賑やかだった。利用者も地域との関わりや外へ出での催しに参加する機会がしばらくなかったため、「気持ちがいいね」「わっしょいわっしょい」と掛け声や手拍子をしていた。
- ・2か月に1回、外出もかねて医大へ受診に行かれる。顔なじみのなのはなタクシーさんと一緒に行かれ、道の駅でソフトクリームを食べたり、お土産にお菓子を買ったりと楽しまれた様子。
- ・例年鯉のぼりはユニット内の壁に飾って季節の行事を感じてもらっている。

- ・家族面会は面会室を使用している。コロナ渦で会うことが出来なかった弟様ご夫婦と数年ぶりに再会され涙を流して喜んでいました。
- ・県外から娘様が帰省し最期の時を一緒に過ごされた。病院では面会することができなかったが、しおさいに帰ってきて面会が出来て嬉しいを言われていた。数年ぶりに孫、ひ孫に会うことができ昔話や家族の話を嬉しそうにされていた。

## 2、サービス提供の状況

(地域住民代表)2か月に1回、医大へ定期受診に行っているが、福祉タクシーを使用すると結構な金額になるのではないかと。お金は大丈夫か。介護保険内で行くのか。

→後見人が外出も兼ねて希望しており自費で行っている。お金のことは後見人にお任せしている。

(家族代表)ビーバードが閉店して、買い物はどうしているのか。

→(施設長)移動販売車の『とくしまる』も手いっぱい様子。町のスーパーがなくなって、ヘルパーが一番困っている。生協もあるが、申込ができない方もいる。なんとかしようと動いている声も聞く。

## 3、その他

### ○事故報告

4月28日転倒骨折事故あり。入所時より食事、水分共に入りにくく脱水傾向。バルーンカテーテル留置しており尿路感染のリスクも高かった。4月に入ってからさらに状態が悪くなり経口摂取できなくなり歩行も困難となった。事故当日トイレに行こうとされ歩くことができず転倒。胸椎圧迫骨折と胃がんがみつきり余命宣告された。家族は最期をしおさいで看取りたいと希望されており、退院後は施設で家族とともに看取った。退院後は痛みがないように2人介助でのケアの実施を行い、痛みの伴う体位変換は福祉用具を使用して行った。保険者への最終報告はまだなので準備出来次第提出に行く。

## ○水害想定訓練

ゲリラ豪雨がありしおさいが浸水したことを想定して実施。

- ・入浴中に停電した場合、浴槽から利用者を引き上げる方法をユニット職員で話し合いを行い実践した。  
→2人介助で抱き上げて救出。警報が出た際は停電の可能性もあるため入浴は中止する。
- ・ベッドの頭元のギャッジが上がった状態で停電した際のギャッジの下ろし方を説明書を見ながら学ぶ。  
→一旦ベットマットと利用者をベッドから下ろし、2人でピンを抜くとギャッジが下がることが分かった。
- ・ライフジャケットの着用、利用者への着用介助を行った  
→利用者へ着てもらった際、1人につき2～3分の時間を要した。職員が2人1組で着用介助を行う方がスムーズに進める事ができた。
- ・ライフジャケットの保管場所の変更。有事の際、すぐ着用できるように各居室に置いた。
- ・しおさいはハザードマットにひっかかっている。避難場所になっている。
- ・6月22日避難訓練を実施予定。

次回予定 令和5年8月4日（金曜日）10時～11時